

第7回 北千葉道路連絡調整会議

平成29年6月9日

千葉県
国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所

1. 前回の連絡調整会議(H28.12.19)

【前回の確認事項】

北千葉道路の構造、整備手法について

- 市川～鎌ヶ谷間は高架構造を基本とする。但し、北千葉JCTから約2kmの区間は、千葉外環との連続性等を踏まえ掘割構造とする。
- 鎌ヶ谷～国道16号間も一般部と専用部の一体構造とする。(専用部の導入)
- 市川～鎌ヶ谷～国道16号間を自動車専用道路とし、有料事業を活用。

引き続き、千葉県、沿線市、国が連携し、地域との合意形成を進めながら、取り組む必要がある。

【前回の連絡調整会議で示された今後の検討課題】

- 課題①「専用部と一般部の連結位置」については、引き続き調整
- 課題② 印西～成田間(事業中区間)の速達性・定時性の確保

2. 前回の連絡調整会議からの動き

○整備手法について

- 市川～国道16号間について、有料事業を活用した自動車専用道路として整備することを「平成28年度第1回千葉県道路協議会(平成28年12月19日開催)」に提案し確認。

○地元への情報発信

- 県と沿線市にて、北千葉道路の計画の必要性等を地域の皆様に周知。
(広報紙発行、オープンハウス開催予定)

○県及び沿線市より、平成29年6月国土交通大臣へ要望

- 全線開通の実現に向け、西側区間(小室IC以西)の早期事業化を図るとともに、全線の直轄編入を図ること。
- 北千葉道路の西側区間(小室IC以西)の専用部については、直轄事業と有料道路事業との合併施行を前提として、速やかに都市計画・環境アセスメント手続きに着手できるよう計画の具体化に向けて協力すること。

2. 前回の連絡調整会議からの動き

○ 県・市において、「計画の必要性」等を地元周知。

● 広報活動計画

- ・ 広報紙の発行(新聞折込・不定期)
- ・ パネル展、オープンハウスの実施

● 活動実績

広報紙(第1号)の発行

- ・ 平成29年5月27日(土)
(約30万部、北千葉道路沿線地域)
- ・ 沿線市の市役所等で配付

● 今後の予定

(1) 広報紙(第2号)

- ・ 7月中旬頃発行
- ・ 第7回連絡調整会議の概要
パネル展・オープンハウスの実施予定等

(2) パネル展・オープンハウス

- ・ 7月中～下旬(予定)
- ※ 場所等について県・沿線市で調整中

【広報紙(第1号)表面】

464 ROUTE 北千葉道路だより 第1号(平成29年5月発行)
発行:北千葉道路広報ワーキンググループ

北千葉道路づくりに関する情報をみなさんにお届けしていきます

北千葉道路とは?

- ・ 一般国道464号北千葉道路は、市川市と成田市を結ぶ全長約43kmの道路です。
- ・ 東葛飾、北総地域の東西方向の骨格となる道路であり、首都圏北部、千葉ニュータウン、成田空港を結ぶことにより、国際競争力の強化を図るとともに、地域間の交流連携、物流の効率化など、地域の活性化に寄与することが期待されます。
- ・ 現在、鎌ヶ谷市から印西市間は、4または8車線で開通しており、印西市から成田市間は整備が進められていますが、市川市から鎌ヶ谷市間においても早期事業化が望まれます。

北千葉道路の必要性は?

周辺道路の渋滞の緩和

- ・ 市川市から鎌ヶ谷市間は東西方向の幹線道路が脆弱なため国道464号や並行する県道等では慢性的に渋滞が発生しています。新しい幹線道路となる北千葉道路が整備されることで、交通が分散され、渋滞の緩和が期待されます。

災害時の緊急輸送ネットワークの強化

- ・ 緊急輸送道路1次路線となっている国道464号や並行する国道356号、国道296号とも2車線しかなく、いずれも緊急輸送道路として脆弱なため、災害時の緊急輸送ネットワークの強化が必要です。

成田空港等の拠点への広域高速移動の強化

- ・ 北千葉道路周辺は物流施設、商業施設等が多数立地しており、北千葉道路の整備により生産性の向上が期待されます。
- ・ 北千葉道路周辺地域は、高速道路のインターチェンジへのアクセス時間が30分以上かかり、地域の機能強化のため、広域高速移動の強化が必要です。
- ・ 湾岸部(京葉道路・東関東道)は渋滞が多発していますが、外環道が開通後、北千葉道路は成田空港への最短ルートとなり、湾岸部の渋滞緩和も期待されます。

2. 前回の連絡調整会議からの動き

○ 平成29年6月2日 国土交通大臣へ要望を実施

国土交通大臣
石井 啓一 様

北千葉道路の全線直轄編入及び
早期事業化等に関する要望



平成 29 年 6 月 2 日
千葉県知事 森田 健作

【要望内容】

- 1 全線開通の実現に向け、西側区間(小室IC以西)の早期事業化を図るとともに、全線の直轄編入を図ること。
- 1 北千葉道路の西側区間(小室IC以西)の専用部については、直轄事業と有料道路事業との合併施行を前提として、速やかに都市計画・環境アセスメント手続きに着手できるように計画の具体化に向けて協力すること。
- 1 平成30年度は、道路予算全体を増額し、必要な予算を確保すること。
- 1 地方の道路整備に必要な道路予算を安定的に確保していくため、国庫補助制度の拡充とともに、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に基づく補助率等のかさ上げ措置の期限を延長し、平成30年度以降も継続すること。

2. 前回の連絡調整会議からの動き

○ 国土交通大臣への要望結果



国土交通大臣への面談状況

千葉県知事、沿線市長等(鎌ヶ谷市、市川市、松戸市、白井市、印西市、船橋市、成田市)、北千葉道路議連(河上会長他)

【森田千葉県知事コメント】

- ・ 西側区間の専用部は、国直轄事業と有料事業の合併施行で進めてもらいたい。
- ・ 県が速やかに都市計画等を進めていくので、協力いただきたい。

【石井国土交通大臣コメント】

- ・ 速やかに千葉県道路協議会を開催し、合意を図りたい。



石井国交相(中央)に要望書を手渡す森田知事
= 2日、国交省大臣室

森田健作知事は2日、石井啓一国土交通相を訪ね、

有料道と合併施行へ

北千葉道路で国交相

北千葉道路の早期完成を要望した。石井国交相は、有料道路化される西側区間15キロについて直轄事業と有料道路事業との合併施行方式で実施する方針を明らかにしたほか、県による都市計画変更や環境アセスメントの早期着手を支援する考えを示した。近く県の幹線道路協議会を開き、これらを諮るといふ。

要望には、同道路建設促進期成同盟(会長・清水聖士鎌ヶ谷市長)の5市長・河上同道路議員連盟(会長・河上茂自民党県連幹事長)の側15市は有料道路となるが、具体的な整備方針が決まっておらず、県は都市計画変更や環境アセスメントの手続きに入っていない。

北千葉道路は成田空港と整備中の外環道をつなぐ全長約43キロ。整備が遅れる西側15市は有料道路となるが、具体的な整備方針が決まっておらず、県は都市計画変更や環境アセスメントの手続きに入っていない。

北千葉道路の早期完成を要望した。北千葉道路が完成すれば、千葉県道路が完成する。北千葉道路が完成すれば、千葉県道路が完成する。北千葉道路が完成すれば、千葉県道路が完成する。

H29.6.3(土)
千葉日報2面